

平成29年度 学校経営構想図

【学校教育目標】

ふるさと矢部を愛し、すすんで、なかよく、たくましく伸びていく子どもの育成

【めざす学校像】
 子どもが楽しく学ぶ学校
 保護者が信頼する学校
 地域が応援したくなる学校

【めざす児童像】

- 「すすんで」めあてに向かって取り組む子ども
- 「なかよく」心のふれあいを深める子ども
- 「たくましく」明るくすこやかに伸びていく子ども

【教育課題】

- 学力 B（根拠の説明、要約、関係づけ、情報処理等）のさらなる向上
- 交流力（思考・判断・表現）の育成
- 家庭学習や規則正しい生活の習慣化
- 肯定的言葉や態度の育成
- ふるさと矢部についての学習や体験の充実

【経営課題】

- 教頭欠による補完体制組織の構築
- 今後の学校を見据えた小中の連携強化
- 「少ない」ことを生かす学校づくり
- 単式・複式のよさを生かす授業づくり

【目指す教師像】 授業を大切にする教師
 学び続ける教師

【中期的な教育目標】
 平成27年度～29年度

- 主体的に学習に取り組む姿へ高める
- お互いに認め合う姿へ高める

【経営戦略】

- 1 教育活動
 - 基礎基本が共有できる指導の工夫とアクティブラーニングの手法を取り入れた単元構成
 - 思考力・判断力・表現力の総合的育成
 - よさも違いも認める優しい空気の学校へ
- 2 組織・運営
 - 職員減を補完する分掌組織の機能化
 - 主任 ↔ 組織による連携強化
 - 「報告・連絡・相談」の徹底
 - 効率的な会議（統合・焦点化による時短）
- 3 教育環境
 - 人的環境 ○物的環境 ○生活環境
 - 地域環境 ○職場環境 等の整備・充実
- 4 人材育成
 - 教育改革に対応できる資質・能力
 - キャリアステージに応じた実践能力

【重点目標】

- 共に学び、学習を深めていく子どもの育成
- 認め合う子どもの育成

教育課程編成の基本方針

◎重点目標の達成と地域や学校の特色を生かすことを踏まえ、下記のように重点を置いて教育課程を編成する。

- 1 重点を置く教科と領域
 - 国語・・・「読む」「話す・聞く」
 - 算数・・・「数と計算」
- 2 道徳教育の重点（個性の伸長は除外）
 - ◎「勤勉・努力」 ◎「思いやり・親切」
 - 「郷土愛」 ※特別の教科へ質的転換を
- 3 生活科・総合的な学習の時間の重点
 - 6カ年で学ぶ「ふるさと体験学習」を系統性に配慮して組織する。
 - 探求的な構成で課題解決能力を養う。
 - 園・他小学校の体験留学を歓迎する。
 - 全学年で浮立・公卿唄の伝承活動を行う。
- 4 特別活動の重点
 - 少人数での児童会活動を工夫する。
 - 学級活動内容（1）ーウ（2）ーウ
 - 話し合い活動を計画的に行う。

◎音楽・図画工作・体育・道徳・総合は学年により2学年で編成する。

【配慮事項】
 ※全教育活動を通して言語活動の充実に努める。（意識すること・目的を持って行うこと・自覚的に改善すること）
 ※2学年編成の際の未履修に留意する。

【経営の重点】

- 1 教育活動「土台づくりとアクティブ化」
 - 凡事徹底・基本徹底による土台固め
 - 思考・判断・表現する場づくり
 - 授業づくり三則・思いやり五項目・重点目標の学級化 帰りの会での振り返り
 - 9ヵ年を見通した教育の意識化
- 2 組織・運営「チーム矢部小」
 - 教頭欠を全員で補完しあい活性化へ
 - 全員でP 全員でD 全員でC 全員でA
 - 一役一人で責任遂行と分掌以外も率先
 - 報・連・相 ○学校内外の積極的繋がり
- 3 教育環境「プラスの環境づくり」
 - プラスの人的環境 ○学習の足跡
 - 全校統一の掲示物 ○学級独自のシステム・ルールづくり ○美しい教室
- 4 人材育成「自己改革」
 - 次期学習指導要領改訂に対応できる資質・能力育成のための研修・研鑽
 - 年代の枠を越えた学び合いと自分育て
 - 日頃のコミュニケーション・お互いに教室を開く

研究主題

自力読みの力を付ける国語科の授業づくり（2年次）